

# 『紡ぐ』

2022.1.15 第34号  
発行 教育相談室「あした塾」

# おんこちしん 温政知新

時間は連続量。  
過去、現在、未来と  
途切れることなく  
続いている。

WV. 人は節目に特別な思いを持ちます。新しい年になり、「思い」をあらたにします。「温政知新」という言葉をもち出したが、辞書にある「以前学んだことや、昔の事柄を調べなおしたり、考えなおしたりして、新たに新しい道理や知識を探り当てること」という意味が、所収が愛の力とする今の穴水町に当てはまるように思えます。こよりの穴水町について、しりぞきえておせんか!?

## 能登トキランクラブ 正式発足

今から52年前の昭和45年1月8日、本州で最大の1羽とったトキ「能里のり」が、穴水町の乙ヶ崎で捕獲されました。その同日、穴水町ふれあい文化センターで「トキ能里」を思ふシンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、トキの保護と研究に文字通り、命をかけた86歳になる村本義雄さん(羽咋市)、トキ能里の捕獲にかかわった穴水町の西柳嘉章さん、新崎を育ち、飛翔するトキに出会い、その美しさに魅了されたという内灘町の河野裕子さんの3人の方がそれぞれの思いを講演されました。

シンポジウムには、名古屋市から参加した人を含め県内各地から108名が参加しました。そしてこの日を機会として、「能登トキランクラブ」を正式に発足させました。(裏面につづく) (シンポジウム会場)



2022年1月15日の朝。雪。良い年になりおすおくに、の思いをこめて歩を進めています。(穴水町 梶地内の神社)

### 投稿

福井市 森康晴 さん



森康晴さんは諸橋出身の方で、現在福井で仕事をしています。書初めをしたのを載せてくださいと送ってくださいます。何枚もありました。紙面の都合で、2枚にしました。

本年もよろしくお願いをいたします。教育相談室「あした塾」 滝井元之





投稿

元大研大所  
米田秀雄 さん

# 三小といいの力

## 風力発電を考之る

「風力発電と世界農業遺産、両立できるか？」再生エネルギーは歓迎するが、何事にも「ほどほど」というのがあり。最近、元水も含め、珠洲の山中に能登のついで尾根のついで巨大風力発電が、何と154基も計画されていると聞き、これには信じられない。しかも、そのついでに「正気だ」と怒りがこぼれ出た。プロペラの直径117m、塔の高さ110m、全体の高さ168.5m。削る山の面積は8.45km×8kmで676ha。これをもつて奥能登に154基、おまけ稼働している小型の73基と合わせて227基。言葉は失う。

膨大な山林を伐採、表土を削り、巨大風車を支える基礎工事。水源の水質汚染、土砂災害、騒音、低周波、動植物への悪影響。そして、里山の汚染、破壊は里海の水質汚染につながる。心配するのは、これら常設外海の事業がそのまゝ進行する恐れがあることだ。



巨大事業に対する法規制が極めて甘く、工事に問題があっても、途中を差し止める権限が行政にはないのである。罰則規定もない。さらに、腹立たしいのは、住民に十分な説明し、理解を得ることが大前提なのに、もうおまけに地権者に接触していることだ。

この事業を中止する。里山里海と折れ合う「おまけ」の規模にするが要求していません。

表面よりつづく

## 能登のトキ放鳥と目指して

「能登トキクラブ」は壮大な目標があります。能登の地に再びトキを飛ばすことです。簡単な事業ではありません。多くの方の力を集めなければ実現は困難です。今後、クラブでは様々な取り組みを進めていきます。まずは多くの方にクラブの会員になっていただきたいと思います。



(トキの刺繍図)



(トキへの思いを語る)

現在、会員は90名です。ぜひ入会を。

クラブの入会は、「能登トキクラブ」のホームページで行えます。困難である場合は事務局(宮内源一郎会長宅、電話0768-52-1903)に連絡してください。(事務局)

シンポジウムの内容や様子については北国新聞、北陸中日新聞他を見てください。(1/9日付) 大きな記事があります。